要請番号（JL10624B06）

募集終了

国名	職種コード 職種	年齢制限	活動形態	区分	派遣期間	派遣隊次
フィジー	C203 養蜂		個別	新規	2年	・2025/1・2025/2・2025/3 ・2026/1

【配属機関概要】

1）受入省庁名（日本語）

青年・スポーツ省

2）配属機関名（日本語）

ナサウ・ユース・トレーニングセンター

3）任地（ シンガトカ町ナサウ ） JICA事務所の所在地（ スバ市 ）

任地からJICA事務所までの交通手段、所要時間（ﾊﾞｽで 約 3.0 時間 ）

4）配属機関の規模・事業内容

青年・スポーツ省が運営するユーストレーニングセンターは全国に5か所あり、その一つであるナサウセンターはシンガトカ町中心部から北東約6キロ、バスで15分ほどの場所に位置する、農業と木工の職業訓練を提供する機関である。ここでは失業者や学校を中退した若者に対し、自営や就職に必要なスキルを訓練することによって、セカンドチャンスを提供する役割を担っている。農業部門においては、1990年より同センター内を拠点としているOISCAからの支援を得て、有機農業にかかる職業訓練等も行っている。日本大使館の草の根・人間の安全保障無償資金協力により、2022年12月に新校舎と教室備品が整備された。

【要請概要】

1）要請理由・背景

農業コースでは、農村部で自活できるスキルを中心に、有機野菜栽培や家畜飼育など、多岐にわたる内容を提供している。2014～16年にはシニア海外ボランティアが派遣され、養蜂の指導が行われていたが、担当者が退職したことや、2016年のサイクロンによる巣箱の壊滅的な被害が原因で、その後は停滞していた。農業省によると、フィジーの気候は養蜂に適しており、ハチミツの生産量は伸びる余地がある。また生活習慣病が社会問題化するなか、ハチミツがもたらす健康効果が注目されており、養蜂は大きな収益を生み出す可能性を秘めている。しかし、その指導を行える人材が限られており、スタッフの育成と生徒への指導が期待され、JICA海外協力隊の要請に至った。

2）予定されている活動内容（以下を踏まえ、隊員の経験をもとに関係者と協議して計画を立て、柔軟に内容を変更しながら活動を進めます）

センターの職員とともに、以下の活動を行う。
1.フィジーの気候・風土に合った養蜂技術確立への提案を行う。
2.配属先スタッフが農業コースにおいて養蜂のノウハウを指導できるよう助言を行う。
3.授業実習として生徒への指導を行う。
4.養蜂ビジネスに関する助言をし、零細企業振興や農業の副業として成立するような支援を行う。
5.木工コースと協働し、巣箱の作製を指導する。

3）隊員が使用する機材の機種名・型式、設備等

オフィススペース、巣箱3箱

4）配属先同僚及び活動対象者

【配属先同僚】
農業担当講師3名(男性、30～40代)

【活動対象者】
18～35歳の生徒

5）活動使用言語	6）生活使用言語	7）選考指定言語
英語	英語	英語(レベル:C)

【資格条件等】

[免許]：（　　）

[学歴]：（　　）　備考：

[性別]：（　　）　備考：

[経験]：（実務経験）2年以上　備考：配属先要望

[参考情報]：

・養蜂以外で家畜等の知識があるとなおよい

任地での乗物利用の必要性

不要

【地域概況】

[気候]：（熱帯雨林気候）　気温：（20～35℃位）

[電気]：（安定）

[通信]：（インターネット可　　電話可）

[水道]：（安定）

【特記事項】

住居は、配属先が提供する、敷地内にある寮となる可能性もある。寮の空きがない場合は近隣の町中央地域に居住し、バスでの通勤となる。

COPYRIGHT(C)1995-2015 JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY. ALL RIGHTS RESERVED.